

2026 年 6 月 9 日

学修行動・成果アンケートについて

学長室 教務委員会

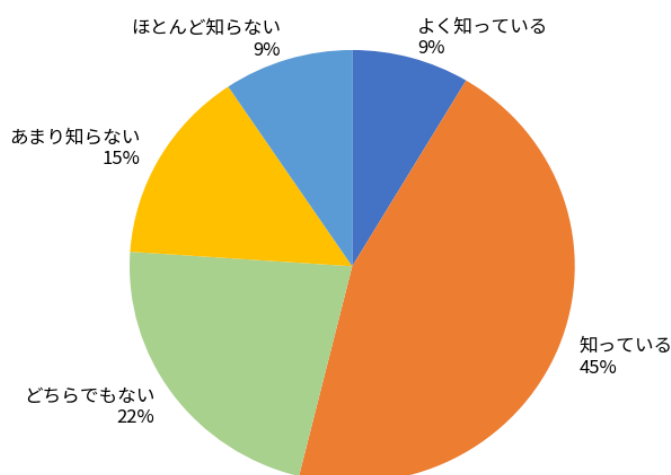
高千穂大学では、学長室・教務委員会の共同事業として新入生を対象とした学修行動・学修成果に関するアンケート調査を実施しております。2022 年度から始まった調査で継続的に実施されることで、高千穂大学での学びの状況についてアンケート調査を用いて、全学的な状況を明らかにするものとなっています。

2026 年度は新入生が授業に慣れてきた 4 月中旬から 5 月下旬にかけて実施いたしました。Google フォームを用いたオンラインで調査を行い、117 名からの回答を得ました。

本アンケートは大学の学風の指針、目標についての理解、学修行動（出席状況、取り組み）、教養・専門知識、スタディスキル、社会人基礎力について問うております。それぞれの結果については以下の通りです。

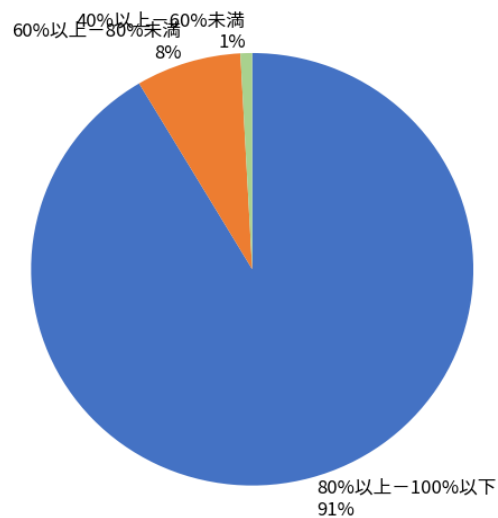
1 年生（2026 年入学生）

1. 高千穂大学の「学風の指針」「学風の目標」について知っていますか。



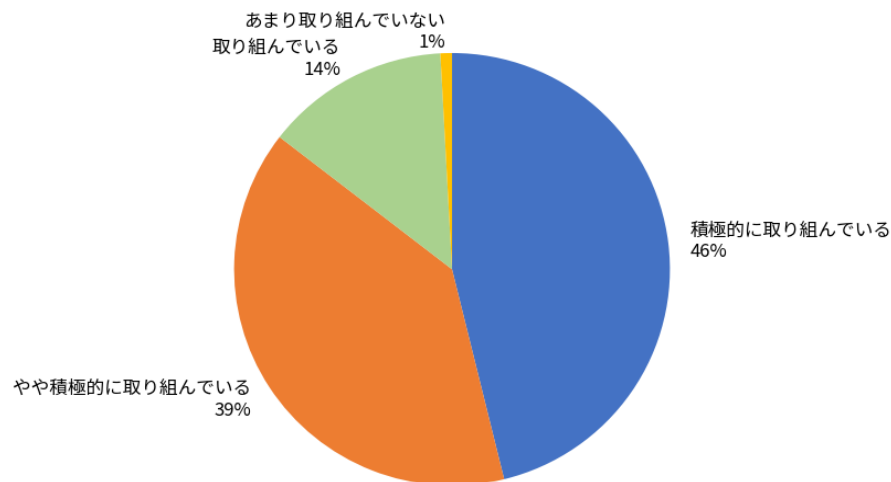
コメント:「よく知っている」と「知っている」を合わせると 54%の学生が本学の学風の指針と学風の目標を理解している状況にある。一方、「あまり知らない」「ほとんど知らない」を合わせると 24%おり、継続的な周知の取り組みが必要である。入学式から 1 年生の必修ゼミを通じて、直接・間接的に理解されていることが示されている。

2. 授業に出席している割合はどのくらいですか。



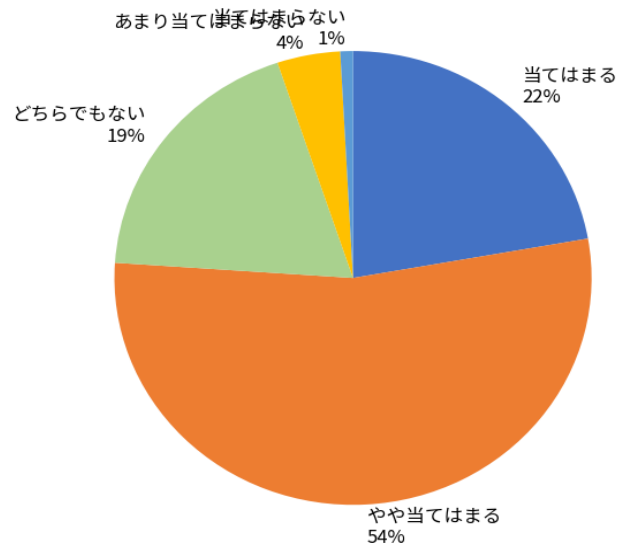
コメント:出席率については91%の学生が「80%以上-100%以下」と回答しており、非常に高い出席率を示している。欠席が60%以上の学生は117名中1名(1%)と極めて少なく、対面での講義形式への適応が順調に進んでいることがうかがえる。

3. 授業に対して積極的に取り組んでいますか。



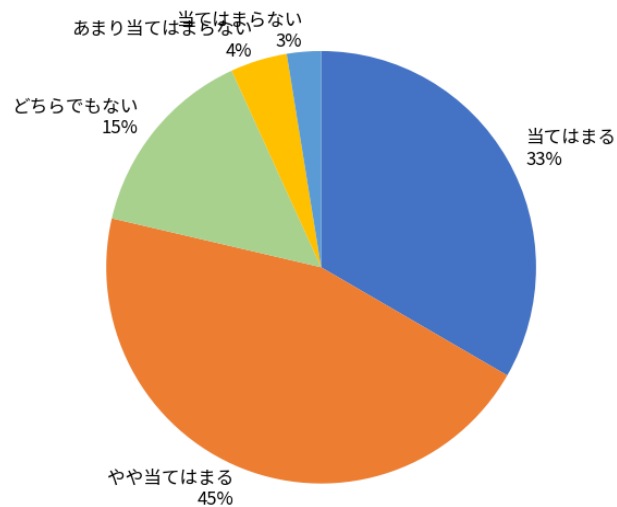
コメント:「積極的に取り組んでいる」(46%)と「やや積極的に取り組んでいる」(39%)を合わせると85%の学生が積極的に授業に取り組んでいる。「あまり取り組んでいない」は1%にとどまっており、授業への参加意欲は全体的に高い水準を示している。

4. 幅広い知識や教養を身につけている。



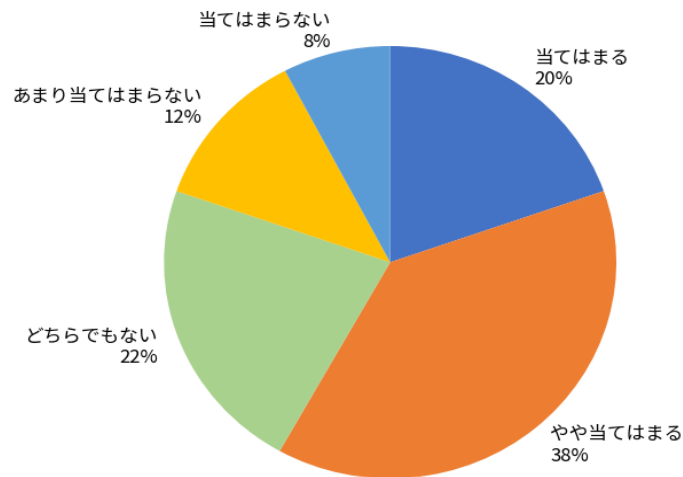
コメント:教養知識については「当てはまる」(22%)と「やや当てはまる」(54%)を合わせると76%の学生が幅広い知識や教養を身につけていると回答している。本学では1年次から教養科目と専門科目をバランス良く導入しており、その成果が表れていると言える。

5. 学部・学科で学ぶ専門知識を身につけている。



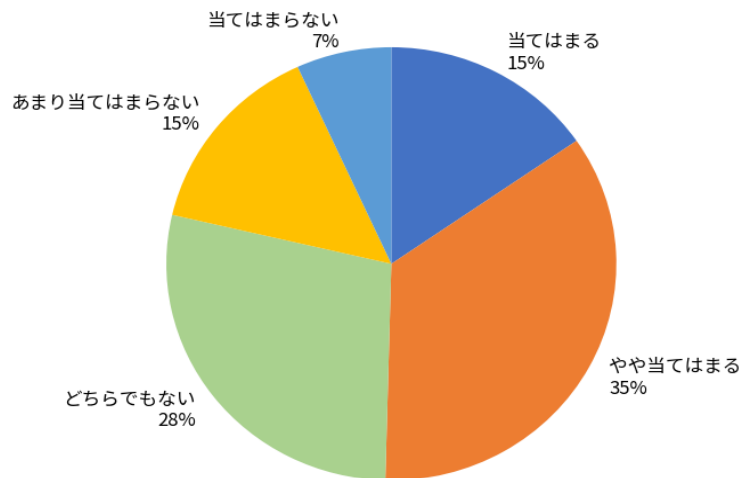
コメント:専門知識については「当てはまる」(33%)と「やや当てはまる」(45%)を合わせると78%の学生が専門知識を身につけていると回答しており、教養知識と同様に高い水準を示している。入学直後から専門科目への関心と習得意欲が育まれていることがうかがえる。

6. レポートの作成で必要となる情報収集 技能を持っている



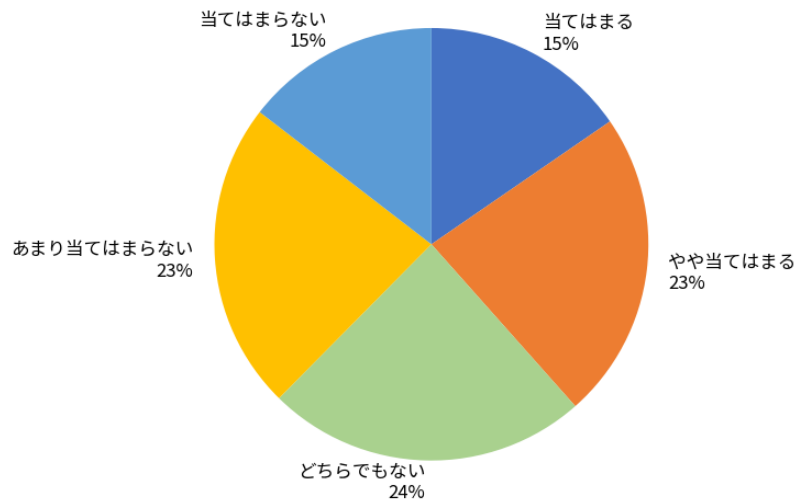
コメント:情報収集技能については「当てはまる」(20%)と「やや当てはまる」(38%)を合わせると58%の学生がある程度の技能を有していると回答している。「どちらでもない」が22%、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」が合計20%おり、今後の指導が期待される領域である。

7. レポート作成に必要な文章作成 技能を有している



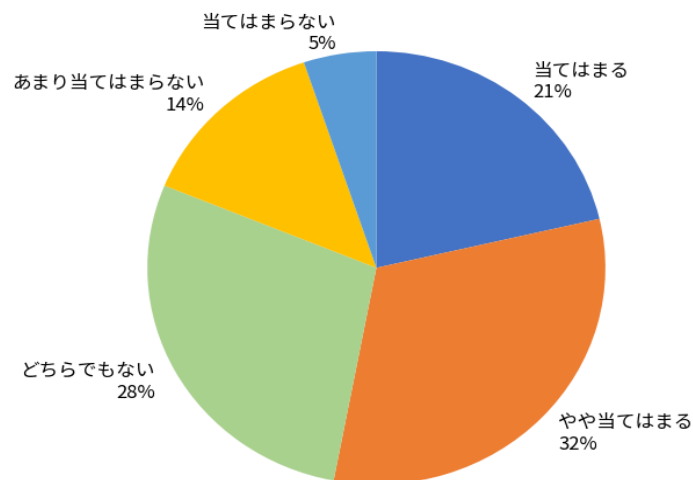
コメント:文章作成技能については「当てはまる」(15%)と「やや当てはまる」(35%)を合わせると50%にとどまっており、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」が合計22%にのぼる。入学時点での文章作成スキルの個人差が大きいことが示されており、初年次教育における継続的な指導が重要である。

8. プレゼンテーション能力を有している



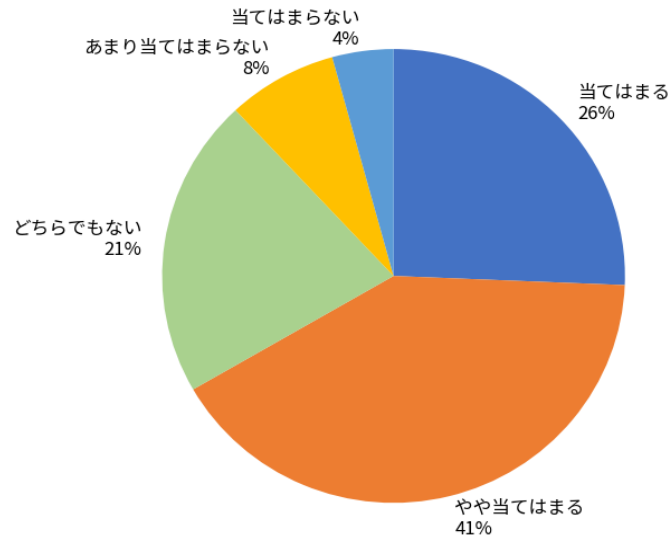
コメント:プレゼンテーション能力については「当てはまる」「やや当てはまる」の合計が 38%にとどまり、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の合計が 38%と、肯定・否定が拮抗している。本学ではプレゼンテーション技能は 1 年次後期から体系的に学習することになっており、現時点では学修成果として顕れてきていないと思われる。

9. 前に踏み出す力が身についている



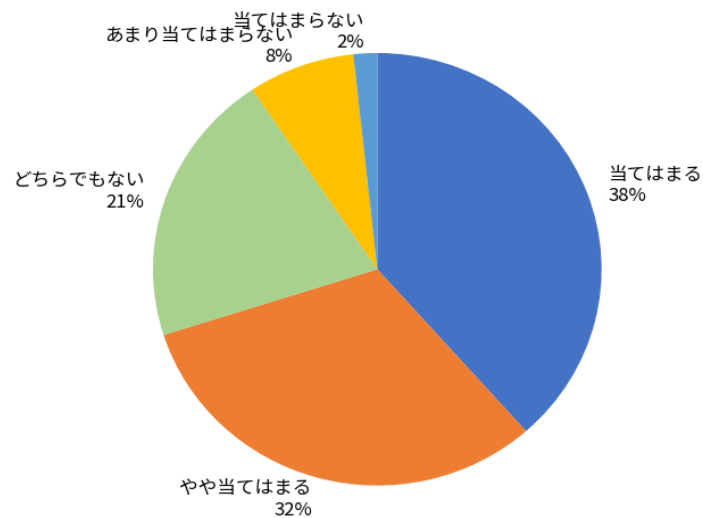
コメント:社会人基礎力の「前に踏み出す力」については「当てはまる」(21%)と「やや当てはまる」(32%)の合計が 53%であり、半数以上の学生が一定程度身についていると回答している。「どちらでもない」が 28%と大きな比率を占めており、今後の大学生活を通じた成長が期待される。

10. 考え抜く力が身に付いている



コメント:「考え抜く力」については「当てはまる」(26%)と「やや当てはまる」(41%)の合計が67%と比較的高い割合を示している。入学後の短期間においても、学修活動を通じた思考力の養成が一定の成果を上げていることがうかがえる。

11. チームで働く力が身に付いている



コメント:「チームで働く力」については「当てはまる」(38%)と「やや当てはまる」(32%)の合計が70%と、社会人基礎力3項目の中で最も高い数値を示している。入学直後の大学生活への適応過程において、グループ活動や必修ゼミを通じてチームワークが育まれていることが示されている。

以上